

環境と暮らし

育てた野菜 披露宴彩る

新郎新婦が育てた野菜が披露宴の食事に。千葉県柏市に四月下旬オープンした貸農園「オークビレッジ柏の葉」の売りは「農園ウエディング」。新たな一歩を踏み出す二人に、生きる源である食について考えてもらうのが狙い。住民参加の企画も展開し、街と農を調和させた地域共生の場を目指す。

農園ウエディング

「こんなに大きくなったよ」「早くみんなに食べてもらいたいね」。オークビレッジ柏の葉の農園。四月二十九日朝、午後から始まる披露宴の前に、東京都杉並区の小幡厚史さん(35)、なつみさん(30)夫妻がカブや水菜を収穫した。

「育てた野菜を参列者に食べてもらえるのがいい」と農園ウエディングを知った昨秋、すぐに申し込んだ。一月、土を耕して種をまき、披露宴などの打ち合わせで訪れるたびに水やりや間引きなどの世話をしてきた。

併設のレストランで行われた披露宴。テーブルには、花や、アスパラガスなどがガラスの器に挿して飾られた。前菜には、二人が心を込めた野菜が出され、デザートブッフェには、キャベツのブリュレやショウガのタルトなど、千葉県産の野菜を使ったスイーツが並んだ。席札代わりに参列者の名前を彫ったマイ箸も用意された。同施設のウエディングプランナー上野梨恵さんが、二人の希望



●新郎新婦が育てた野菜が盛りつけられた前菜
●千葉県産の野菜を使ったデザート

打ち合わせ時 土耕し種まきや水やり



野菜を収穫する小幡厚史さん(左)なつみさん(右)夫妻。いずれも千葉県柏市のオークビレッジ柏の葉で

を聞きながら、地産地消、環境重視などの考えを盛り込んだ披露宴づくりに知恵をこぼした。消費動向に詳しい電通総研・専門領域コンサルティンク部の研究主幹、野村尚矢さんは「結婚式が個性の表現となって久しい。手間暇かけて育てた作物を料理にというの

は、その最たるもの。都市近郊のほどよい非日常空間で、農業とおしゃれが絶妙にマッチしている」と分析する。その一角にあるオークビレッジ柏の葉は、一鈴

専門家「農業とおしゃれ マッチ」

を使って観察記録を付けている。野菜栽培をきっかけに自分で考え、調べていく中で、自然への関心やコミュニケーション能力、情報通信技術力を育てていく。

今後は、住民向けの料理教室や、近隣農家も参加する野菜販売などを通じて、地域活性化を図る。「食と農」によって、農業の担い手不足や食の安全性などについて考え、暮らしを問い直す場になりたい」と、同社マーケティング部長の鈴木邦裕さんは話している。

アラスカに暮らす

河内 牧栄

～63～

「ねえねえ、今から外に行こうよ」。時計は既に真夜中の十二時を回っていた。が、子どもたちの誘いをむげにもできない。「よし、出掛けてみるか」

こかへ飛んでいく。息子と小学校上級生の女の子、ランドー、彼女の友人と僕の四人で町を囲むように広がるツンドラを歩いた。「この花の蜜吸ってごらん」。綿毛をまもって地面の上で低く咲いているケブカシオガマの赤紫色の花びらをランドーが摘んで、息子に手渡した。「何となく甘いね」。ランドーをまねて息子も花びらを摘みだす。



ランドー(左)とその友人。手前にはレミングが気になる息子。アラスカ州パロー郊外のツンドラで

アラスカ最北の町、パローに住むエスキモーの友人宅に、家族三人で滞在していたある初夏のことだ。暖房が効いた家から一歩出ると、冷たく湿った風が首筋にまとわりついて、背中がふるふるっと震えた。入り口のひさしの上では、ユキホオシロがちょこちょこ

と小刻みに歩き、どこかへ飛んでいく。息子と小学校上級生の女の子、ランドー、彼女の友人と僕の四人で町を囲むように広がるツンドラを歩いた。「この花の蜜吸ってごらん」。綿毛をまもって地面の上で低く咲いているケブカシオガマの赤紫色の花びらをランドーが摘んで、息子に手渡した。「何となく甘いね」。ランドーをまねて息子も花びらを摘みだす。

「こいつ、かみつまかな」。息子が脇からちょっかいを出す。レミングはシロフクロウの大好物だ。女の子の言葉にレミングはどこか

おびえた様子だ。そこへ、シロフクロウが遠巻きに低空飛行しながら視線をこちらに投げていく。白夜を象徴するかのよつに、真夜中の太陽が大地に落とす四人の長い影がどこまでも続いていた。吐く息が白いことに気づいた。北極海に面したこの場所は、時に霧を伴って海から吹く風で大地が冷やされ、真夏でもツンドラが緑に染まることはない。

ヤナギは地をはうように枝葉を伸ばし、太陽の熱がかかるうらみ、定められている。過酷とも思える環境の中、何千年も暮らし続けてきた人々のことを思った。「ここでは七月初旬に春が来て、七月中旬に夏になる。そして、七月下旬にはもう秋のさ。パローで聞いた言葉だ。(ネーチャーガイド兼写真家)

生活

と小刻みに歩き、どこかへ飛んでいく。息子と小学校上級生の女の子、ランドー、彼女の友人と僕の四人で町を囲むように広がるツンドラを歩いた。「この花の蜜吸ってごらん」。綿毛をまもって地面の上で低く咲いているケブカシオガマの赤紫色の花びらをランドーが摘んで、息子に手渡した。「何となく甘いね」。ランドーをまねて息子も花びらを摘みだす。

真夜中のツンドラ探検

と小刻みに歩き、どこかへ飛んでいく。息子と小学校上級生の女の子、ランドー、彼女の友人と僕の四人で町を囲むように広がるツンドラを歩いた。「この花の蜜吸ってごらん」。綿毛をまもって地面の上で低く咲いているケブカシオガマの赤紫色の花びらをランドーが摘んで、息子に手渡した。「何となく甘いね」。ランドーをまねて息子も花びらを摘みだす。

洗濯槽快



部屋干しを除去。付着するクロカビを抑えるとともに、使い方は簡単。粉末が不織布の袋に入っているの、ネットに入れば、洗濯物と洗剤と一緒に洗うだけです。

や生乾きの臭いも防ぎます。一袋で連続三十回使えるので、毎日洗濯する場合は一カ月ごとに換えればOK。除菌のためだけに洗濯機を回す必要もなく、日々、除菌、脱臭できるので便利で安心だと感じました。

2人入り(一個30g) ネット付き、1155円。テイクネット 0120(648061)。受付時間は前9:後6。HP: p://www.takenet-eco.co.jp/

新刊紹介

◇「原発は不良債権である」金子勝著(岩波ブックレット、5255円)「電気料金値上げキャンペーンの嘘(うそ)」東電は事実上、経営破綻している」「核燃料サイクル事業という不良債権」



切りにする。ネギは5mm長さに切る。卵は溶きほぐし、塩少々を加える。鍋に油小さじ1を中火で熱し、いり卵を作るとり出す。鍋にしらたき、シイタケ、しょうゆ大さじ1、みりん・酒各大さじ1を入れ、中火で汁気がなくなるまでいり煮にする。ネギを加えてさっと炒め、火を止める。いり卵と削りがつおを加えて混ぜ、器に盛る。協力・ベターホームのお料理教室

しらたきのいり煮 1人分98kcal、塩分2.3g

【主な材料・2人分】しらたき1袋(200g)、卵1個、シイタケ2枚、万能ネギ1〜2本、削りがつお3g 【作り方】①しらたきは5〜6cm長さに切り、熱湯でさっとゆでる。シイタケは石づきをとり、薄

